

堺市こころの健康センター所報

第 2 号
(平成 19 年度実績)

堺市こころの健康センター

はじめに

堺市こころの健康センターは、政令指定都市への移行に伴い平成 18 年 4 月 1 日に開設され、関係者並びに市民の皆様のご理解やご協力の下、この 4 月で 3 年目を迎えました。ここに、平成 19 年度の業務実績をまとめました「堺市こころの健康センター所報」ができあがりましたのでお届けいたします。

平成 18 年度の業績と比較しまして、専門相談事業の延べ件数が 1,663 件から 3,653 件へ、こころの電話相談の延べ件数が、1,236 件から 1,696 件へと増えてきております。そして、医療審査会及び自立支援医療関係では、医療保護入院届出書類が、1,495 件から 1,669 件へ、退院及び処遇改善請求が、219 件から 235 件へ、精神障害者保健福祉手帳が 1,317 件から 1,482 件へと精神保健福祉に関する業務が着実に増えてきていることが伺えます。

また、堺市におきましても自殺者数が働き盛り世代を中心に高い水準で推移していることから、平成 20 年 1 月に市内の事業所及び就業者を対象にメンタルヘルスに関する調査を行いました。これによりますますうつ病の理解について、症状を知っている人は多いが、治療法・対処法は知らない人が多く、治療しなくても治ると考える人を多く認めました。そして、飲酒をストレス解消法に挙げる方が多く、適正飲酒を超えた飲酒の割合も多数存在しており、40 歳を超えるとその傾向が高いといった結果でした。まだまだメンタルヘルスについての理解に不十分な面のあることが浮き彫りとなりました。

今後も、微力ではございますが、こころの健康センター職員一同、精神保健福祉に関する普及・啓発活動にさらに力を入れ、市内の関係諸機関との連携を取りながら、業務に邁進していく所存です。引き続き、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 21 年 1 月

堺市こころの健康センター
所長 森川将行

目次

はじめに

堺市こころの健康センターの概要

1 施設	1
2 組織と職員数	3

事業概要と業務実績

1 専門相談・診療事業	4
2 教育研修事業	10
3 普及啓発事業	14
4 技術支援事業	23
5 組織育成事業	25
6 精神医療審査会・自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定	26

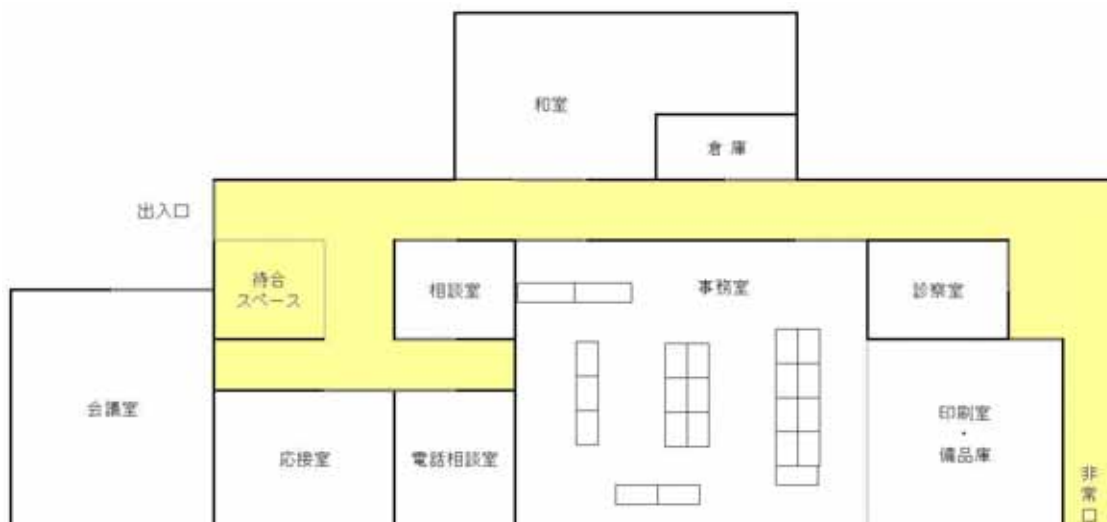
堺市こころの健康センターの概要

1 施設

1 - 1 外観

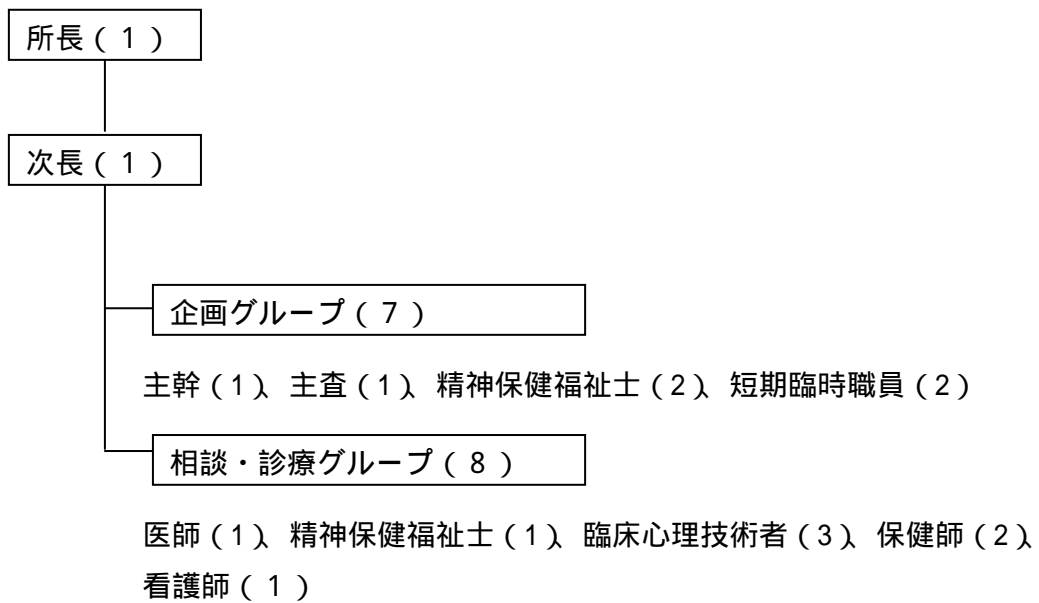


1 - 2 平面図



2 組織と職員数

2 - 1 組織



2 - 2 職種別職員数

	医師	精神保健福祉士	臨床心理技術者	保健師	看護師	事務職
所長・次長	1	1				
企画 G		2 内非常勤職員 1				4 内短期臨時職員 2
相談・診療 G	1	1	3 内非常勤職員 1	2	1 内非常勤職員 1	

電話相談員・・・4名(1日1名で当番制)

事業概要と業務実績

1 専門相談・診療事業

1 - 1 専門相談事業

地域精神保健福祉業務のなかの複雑困難な事例に対して、精神的健康の保持増進及び関連問題の発生予防と早期発見等を目的に相談業務を行った。(表 1-1~2)

(表 1-1) 専門相談事業 件数

	延べ件数	実件数
全体	3,653	383
(内ひきこもり相談)	1,128	109
(内発達障害相談)	1,649	117

(表 1-2) 相談の形態

形態	件数
電話	1,548
来所	1,813
訪問	201
その他	91
合計	3,653

1) ひきこもり専門相談

ひきこもり状態にある本人及び関係者に対し、本人の孤立・深刻化等を防ぐために、個別の相談支援を行った。また、ひきこもりという状態像のため、本人の来所が困難な場合は、個別の状況に応じて、関係機関との連携し、家族や関係者の来所相談・本人への訪問相談を行った。対象は、おおむね 15 歳以上で、自宅以外での生活の場が失われている状態にあり、明らかな精神疾患の存在が認められない本人及び家族・関係者とした。(表 1-3~6)

(表 1-3) ひきこもり専門相談件数

	件数
延べ件数	1,128
実件数	109
(内新規)	38

(表 1-4) 相談の形態

形態	件数(延べ)
電話	303
来所	716
訪問	80
その他	29
合計	1,128

(表 1-5) 相談者の内訳

相談者	件数(実)
本人	600
家族	441
関係者	184
その他	1
合計	1,226

(表 1-6) 新規紹介元機関

機関	件数(実)
保健センター	6
市町村	0
医療機関	4
その他	28
合計	38

* 複数での相談を含むため合計数は相談件数とは異なります

2) 高機能広汎性発達障害専門相談

主にひきこもり状態にある成人で、知的障害が認められない広汎性発達障害(高機能自閉症・アスペルガー症候群)の発見と、当該障害者の個別の状況に応じて関係機関との連携のなかで2次障害の治療と予防・障害理解の促進を行った。対象は、おおむね15歳以上で、高機能広汎性発達障害(高機能自閉症・アスペルガー症候群)の本人および関係者、また、上記の疑いが見られる本人および関係者とした。(表 1-7~10)

(表 1-7) 高機能広汎性発達障害専門相談件数

	件数
延べ件数	1,649
実件数	117
(内新規)	28

(表 1-8) 相談の形態

形態	件数(延べ)
電話	563
来所	987
訪問	47
その他	1
合計	1,598

(表 1-9) 相談者の内訳

相談者	件数(実)
本人	983
家族	537
関係者	299
その他	6
合計	1,825

(表 1-10) 新規紹介元機関

機関	件数(実)
保健センター	8
市町村	0
医療機関	3
その他	17
合計	28

* 複数での相談を含むため合計数は
相談件数とは異なります。

1 - 2 ひきこもり専門グループワーク

ひきこもり状態にある本人を対象に、集団活動を通して社会への不安の軽減、対人関係認識の向上を図ることを目的として、グループワークを毎月、第2火曜、第4木曜の午後2時から4時まで実施した。グループ参加の動機づけを高めるため、会報を作成し、平成19年度は17回作成、年度末に冊子としてとりまとめた。(表 1-11~12)

(表 1-11) 参加者

	参加人数
延べ人数	76
実人数	7

(表 1-12) 活動内容

回数	内容	回数	内容
第1回	花見	第13回	室内活動
第2回	室内活動	第14回	調理(すき焼き)
第3回	調理(肉じゃが)	第15回	紅葉狩り
第4回	卓球	第16回	卓球
第5回	室内活動	第17回	室内活動
第6回	調理(ピザ風もんじゃ)	第18回	調理(うどんすき)
第7回	バトミントン	第19回	道具整理
第8回	話し合い	第20回	ソフトテニス
第9回	調理(冷やし中華)	第21回	調理(水炊き)
第10回	卓球	第22回	室内活動

第 11 回	室内活動	第 23 回	調理（寄せ鍋）
第 12 回	調理（BBQ）	第 24 回	振り返り

1 - 3 高機能広汎性発達障害専門グループワーク

成人期高機能広汎性発達障害者に対して、安心して集団活動を行える場を提供し、集団活動を通して障害理解の促進と、コミュニケーションの方法に関する認識の向上を図ることを目的とし、グループワークを実施した。対象は、専門相談において継続相談中であり、診察及び所内会議にて参加の必要性を検討された方とした。

平成 19 年度は、6 月から開始し、全 12 回のグループワークを実施した。日時は、第 1・3 水曜の午後 1 時半から 3 時までとした。（表 1-13～14）

（表 1-13） 参加者

	参加人数
延べ人数	80
実人数	7

（表 1-14） 活動内容

回数	内容	回数	内容
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールの説明など ・ グッズの説明、自己紹介など 	第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニ講義を聞いての感想、質問 ・ 電話で困ること・私の工夫
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報について ・ グループの名前について 	第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の得意なこと、苦手なこと ・ 仕事についてのミニ講義
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広汎性発達障害について思うこと ・ 余暇、趣味について 	第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニ講義を聞いての感想、質問 ・ SST についてのミニ講義
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚過敏について ・ ストレス対処法について 	第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニ講義を聞いての感想、質問 ・ グループ終了後について
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の区切り方について ・ コミュニケーションで困ること、私の工夫 	第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の特徴について説明してみよう ・ グループ終了後について
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 断る時に困ったこと、私の工夫 ・ 利用できる制度についてのミニ講義 	第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ終了後について ・ フェアウェルパーティー

1 - 4 専門外来診療事業

公的医療機関として、一般精神科では対応困難な、ひきこもりと高機能広汎性発達障害の特定外来診療を予約制にて行った。平成 18 年度は、7月から実施した。(表 1-15 ~ 16) なお、表 1-15 は、心理検査の件数も含まれる。

(表 1-15) 件数

	件数
延べ件数	110
実件数	38

(表 1-16) 診断名

診断(重複診断あり)	件数
広汎性発達障害	14
特定不能の広汎性発達障害	6
知的障害	6
気分障害	4
強迫性障害	3
学習障害	2
統合失調症	1
妄想性障害	1
適応障害	1
パーソナリティ障害	1
未診断(中断)	5

1 - 5 こころの電話相談

一般的にこころの病に対する偏見は依然として強く、適切な精神科医療機関及び相談機関の知識の普及は未だ充分ではない。電話の利便性の高さや匿名性を活用し、よりスムーズな医療・相談機関情報の提供を行うとともに、精神障害者の生活相談に即応することを目的として、電話相談を実施した。

形式として、専用回線(1回線)を使い、専従の電話相談員(有資格者)が相談を受けた。開設時間は、年末年始をのぞく、平日の9:00~12:30、13:30~17:00とした。(表 1-17~20)

また、電話相談における常連通話者(リピーター)や困難事例への対応の検討、及び相談技術の向上、社会資源の情報の更新等を目的に、電話相談員の連絡調整会議を年3回実施した。また、困難事例への対応等を目的に、電話相談員へのスーパービジョンを32回実施した。

(表 1-17) 件数 (相談日は 243 日)

	件数	日平均
全体	1,696	7.0
(内新規相談)	927(55%)	3.8
(内リピーター)	769(45%)	3.2

(表 1-18) 相談時間 (分)

	件平均	最長
全体	17.8	105
新規	17.3	93
リピーター	18.3	105

(表 1-19) 電話相談

してきた人の内訳

相談者	件数	割合
本人	1,291	76.1%
家族	300	17.7%
関係者	40	2.4%
不明	65	3.8%

(表 1-20) 相談内容

内容	件数	割合
日常生活	759	44.8%
精神科医療に関すること	322	19.0%
対象者への対応	219	12.9%
対人関係	131	7.7%
性に関すること	34	2.0%
社会復帰に関すること	59	3.5%
問合せ (上記以外)	85	5.0%
不明	87	5.1%

2 教育研修事業

2 - 1 新任者研修

精神保健福祉相談関係機関にて相談業務に従事する原則1年未満の職員を対象に、精神障害に関する基礎的な知識と基本的な技術の習得を目的として、研修を行った。(表2-1)

(表2-1) 新任者研修 実施実績

実施日	内容	講師	参加人数
5月14日	堺の精神保健福祉の歴史	こころの健康センター 次長 小出 保廣	20
	精神疾患の理解 (総論)	こころの健康センター 所長 松村 一矢	
5月15日	地域における援助活動の実際	桃山学院大学 実習指導室長 重野 勉 氏	17
5月16日	H C 精神保健福祉相談員業務の実際	美原保健センター 精神保健福祉相談員 正徳 篤司	18
	精神疾患の理解 (統合失調症と気分障害を中心に)	こころの健康センター 医長 龍田 浩	
5月17日	当事者と家族の思い	出前はあと 櫻井 久美子 堺のぞみの会 川辺 慶子	17
	精神障がい者の就労支援	就業・生活支援センター 湯川 紘志 氏	
5月18日	社会的マイノリティの人権	NPO 法人サワリ 金 永泰 氏	14
	援助職のストレスケアについて	こころの健康センター 心理職 岩田光宏・真志田直希	

2 - 2 現任者研修

精神保健福祉相談関係機関にて相談業務に従事する職員を対象に、精神障害に関する理解を深め、支援の技術を向上させることを目的として、研修を実施した。(表 2-2)

(表 2-2) 現任者研修 実施実績

実施日	内容	講師	参加人数
7月31日	講義「人格障害」	稲垣診療所 ケースワーカー 高部 美夫三 氏	51
8月7日	演習「人格障害」	同上	8
8月28日	演習「人格障害」	同上	8
9月4日	演習「人格障害」	同上	8
9月5日	演習「面接技法」	大阪府立大学人間社会 学部社会福祉学科 准教授 山中京子 氏	12
9月6日	演習「面接技法」	同上	12
9月7日	演習「面接技法」	同上	12
11月2日	講義「精神疾患の基礎知識」	こころの健康センター 所長 松村一矢	22
11月8日	講義「精神疾患の基礎知識」	こころの健康センター 医長 龍田 浩	21
平成 20 年 2月29日	演習「初回相談を受ける～電話での出 会い～」	桃山学院大学 実習指導室長 重野 勉 氏	10
3月7日	演習「初回相談を受ける～はじめての 面接～」	同上	11

2 - 3 講師派遣研修

精神保健福祉関係機関や精神保健福祉に関心のある団体等からの要請により所内専門

職を派遣して研修会を実施した。(表 2-3)

(表 2-3) 講師派遣実績

実施日	対象	内容	講師	参加人数
4月20日	大阪府ろうあ者福祉指導員連絡協議会定期総会	対人援助業務(相談業務)を担う者の心のセルフケア	医師	29
5月24日	堺市民生委員児童委員長管外研修会	うつ病の理解とその対応	医師	93
5月28日	なごみ福祉会	こころの健康センターの活動紹介と心の病について	医師	35
5月30日 1月30日	堺のぞみの会主催・新会員対象「SST 家族交流会」	病気を持った方への家族の関わり方	臨床心理技術者	12 13
6月4日	堺区障害者福祉委員会自主研修会	精神障害と理解と対応～うつ病を中心に～	医師	44
6月8日	精神障害者相談員研修	相談の方法について ～いいところを見つけをやってみよう～	臨床心理技術者	10
6月12日	精神保健福祉相談課題別研修	発達障害について	医師 臨床心理技術者	15
6月21日	パラバルーン会議(南区)	こころの健康センター業務内容紹介	精神保健福祉士	80
7月12日	理学療法士学生研修会	堺市の精神保健業務説明	精神保健福祉士	25
7月13日	東区学校保健・地域保健連絡会	小中学生のこころの健康～ストレスの話を中心に～	医師	30
7月18日	東区ケアマネージャー連絡会	認知症について	医師	26
7月24日	民生委員・児童委員南区域夏期全体研修会	民生活動とそのこころのケア	医師	160
8月27日	手話通訳者研修会	ストレスと付き合うコツ	医師	31

9月28日	大阪知的障害者福祉協会支援スタッフ部会研修会	ストレスと付き合いのコツ	医師	31
10月10日	堺市管理職研修	職場のメンタルヘルス ~ 気づきと対応 ~	医師	77
10月16日	京都市精神保健福祉相談員研修	医療観察法の現状について	精神保健福祉士	40
10月26日	子ども連絡会学習会	人格障害の対応の仕方	医師	15
11月6日	大阪精神病院協会看護実習生	精神保健の業務について	精神保健福祉士	8
11月8日	精神保健福祉業務現任者研修	統合失調症と気分障害を中心に	医師	21
11月27日 12月13日	人権相談業務担当研修	精神疾患の理解と支援について	精神保健福祉士	15 15
12月7日	相談機関研修事業	うつ病等に関する基礎知識	医師	70
1月26日	セカンドステージ中百舌鳥塾	ストレスと上手につきあうコツ	精神保健福祉士	20
2月6日	大阪ユースホステル協会職員研修会	こころの病を理解しよう	医師	43
2月29日	くらしの健康講座	認知症の早期発見	医師	10
3月13日	地域生活支援センター職員研修	精神障害の理解と支援	医師 精神保健福祉士	15
3月19日	南区包括支援センター ケアマネ研修	精神障害の理解と支援	精神保健福祉士	60
合計 (27日)				1,022

3 普及啓発事業

地域住民が、こころの健康に関心を持ち、こころの健康の保持増進の大切さや、精神障害の正しい知識、また自らの精神的健康に気を配ることが出来るように、こころの健康づくりに関する知識の普及・啓発を実施した。

3 - 1 刊行物

1) 機関誌

堺市こころの健康センター通信（機関誌）を愛称『こころ さかい』として、年3回発行し、堺市各区の図書館、各区役所の市政情報コーナーなど、市民が足を運ぶことの多い場所に配架した。（表3-1）

（表3-1）「こころ さかい」発行実績

発行年月	通算	発行部数	主な内容
平成 19 年 6 月	第 4 号	1,000 部	ストレスと上手につきあうコツ
平成 19 年 12 月	第 5 号	1,000 部	続・ストレスと上手につきあうコツ （リラクゼーションについて）
平成 20 年 3 月	第 6 号	1,200 部	続・ストレスと上手につきあうコツ （認知に気づくコツ）

2) 冊子

精神的健康の増進、精神疾患に対する正しい知識の普及を目的として冊子を作成し、各区の保健センターへ配架する他、講演会、普及啓発イベント等で配布した。（表3-2）

（表3-2）冊子発行実績

名称	発行部数
うつ病ってなに？	1,500 部

3 - 2 ホームページ

電子媒体を用いて、精神障害者への支援制度、利用可能な資源の周知、精神疾患に対する知識、研修会、講演会等の精神保健福祉に関する情報、地域の情報を掲示することで精神保健福祉の向上を図ることを目的とし、平成 18 年 4 月より開設、平成 19 年度は

6回の更新を行った。

URL: http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_hoken/kokoroken.html

3 - 3 (健康推進に関すること)

1) 精神保健福祉セミナー

広く市民に精神保健福祉に関する正しい知識の普及・啓発を行うとともに、こころの健康についての関心を促すことによって、ノーマライゼーションの理念の実現に向けて、こころ豊かなまちづくりを市民の側から進めるきっかけとすることを目的として企画開催した。企画・運営は、市内関係機関との実行委員会が実施した。(表 3-3)

(表 3-3) 精神保健福祉セミナー開催実績

名称	第 14 回堺市精神保健福祉セミナー 毎日楽しく行こう ~YOU 言っちゃいな~
開催日	平成 20 年 2 月 3 日(日)
場所	北区役所エントランスホール・大会議室
主催	第 14 回堺市精神保健福祉セミナー実行委員会
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 精神保健福祉に関する講演 講師 栄 セツコ 氏(桃山学院大学准教授)・ 精神障害者のある当事者・家族中心の座談会 聞き手 宮脇 稔 氏(社会復帰施設アンダンテ施設長)・ 展示・体験コーナー パネル展示 作品展示 幻聴幻覚擬似体験機コーナー、 アルコールパッチテスト
参加者	約 250 名

2) 精神保健福祉ボランティア講座

現在、ボランティア活動をしている市民に対し、精神障害についての研修を行い、精神障害者の方のボランティアが円滑に行えるようにすることを目的として実施した。

(表 3-4)

(表 3-4) 精神保健福祉ボランティア講座 実績

名称	平成19年度精神保健福祉ボランティア講座
実施日	平成20年2月22日(金)・27日(水)
場所	堺市総合福祉会館
主催	堺市・堺市社会福祉協議会・NPO法人ソーシャルハウスさかい
内容	1日目：精神疾患の基礎知識(稲垣診療所 院長 稲垣 俊雄 氏) 精神保健福祉ボランティアコーディネイトについて(柏原市地域生活支援センター かしはら 栄 広司 氏) 2日目：当事者の話(出前はあと 古田 忠 氏、古田 喜代美 氏、 近島 勇 氏)
参加者	1日目：35名 ・ 2日目：34名

3) ハッスル運動会(堺市精神障害者地域交流運動会)

堺市内の医療機関もしくは社会復帰施設等を利用する精神障害者やその家族、関係機関の職員及びボランティアを含めた市民等が相互に交流することにより、精神障害者への理解を深め、精神障害者の社会参加を促進するとともに、地域のネットワークづくりの構築を推進することを目的として、開催した。(表 3-5)

(表 3-5) ハッスル運動会開催実績

名称	第19回 ハッスル運動会(堺市精神障害者地域交流運動会)
開催日	平成19年10月10日(水)
場所	大仙公園催し広場
主催	堺市精神障害者地域交流運動会実行委員会
企業協力 (順不同)	大阪いずみ市民生活協同組合・(株)神戸屋堺工場・堺ヤクルト販売(株) エクソンモービルグループ労働組合・フクダ電子(株)
参加者	総数：691(当事者470名、スタッフ等221名)

4) 家族講演会

精神障害をお持ちの方のご家族を対象に、精神障害についての研修を行い、ご家族の不安を軽減するとともに、交流の機会を設け、孤立を防止することを目的として、開催した。(表 3-6)

(表3-6) 家族講演会実績

開催日	内容	講師	場所	参加人数
平成20年 3月15日	地域でいきいきと暮らせる支援とは	しのめハウス 施設長 菅野 治子	総合福祉会館 大研修室	40

3-4 家族教室、家族交流会

1) ひきこもり家族教室

社会的ひきこもりについての理解を深め、対応についての工夫を見出すために、身近な存在である家族に対して家族教室を行った。(表3-7)

(表3-7) ひきこもり家族教室 実績

実施日時	第1回目 平成19年10月31日 午後1時30分～4時 第2回目 平成19年11月14日 午後1時30分～3時30分 第3回目 平成19年11月28日 午後1時30分～4時
場所	北区役所 3階 302会議室
内容	第1回目 講義：「ひきこもりについて」(精神科医)・グループワーク 第2回目 講義：「ひきこもりの理解」(心理職)・グループワーク 第3回目 講義：「ご家族の関わり方について」(心理職)・グループワーク
参加者	第1回目 22名、第2回目 17名、第3回目 20名

2) ひきこもり家族交流会

ひきこもり家族教室に参加したご家族が、引き続き同じような悩みを抱えている家族と交流するために、家族交流会を行った。(表3-8)

(表3-8) ひきこもり家族交流会 実績

実施日時	平成20年 2月 6日 午後2時～4時
場所	こころの健康センター 会議室
内容	「今後について」(保健師)・グループワーク
参加者	16名

3) 広汎性発達障害家族教室

広汎性発達障害やアスペルガー症候群についての理解を深め、対応についての工夫を

見出すために、身近な存在である家族に対して家族教室を行った。(表3-9)

(表3-9) 広汎性発達障害家族教室 実績

実施日	第1回目	平成19年	7月11日	午後1時30分～3時30分
	第2回目	平成19年	7月25日	同上
	第3回目	平成19年	8月8日	同上
場所	北区役所 3階 302会議室			
内容	第1回目	講義：「特性の理解」(精神科医)・グループワーク		
	第2回目	講義：「二次障害について」(心理職)・グループワーク		
	第3回目	講義：「ご家族の関わり方について」(心理職)・グループワーク		
参加者	第1回目 20名、第2回目 20名、第3回目 20名			

4) 広汎性発達障害家族交流会

広汎性発達障害家族教室に参加したご家族が、引き続き同じような悩みを抱えている家族と交流するために、家族交流会を行った。(表3-10)

(表3-10) 広汎性発達障害家族交流会 実績

実施日時	第1回目	平成19年	9月20日	午後2時～4時
	第2回目	平成19年	11月1日	同上
	第3回目	平成20年	1月10日	同上
	第4回目	平成20年	3月6日	同上
場所	こころの健康センター 会議室及び和室			
内容	第1回目	「今後について」(保健師)・グループワーク		
	第2回目	「自立支援法について」(保健師)・グループワーク		
	第3回目	「発達障害者支援法について」(保健師)・グループワーク		
	第4回目	「発達支援センターと意見交換」(保健師)・グループワーク		
参加者	第1回目15名、第2回目15名、第3回目11名、第4回目15名			

5) うつ病家族教室

近年、うつ病に罹患する患者が増加している。また、年間3万人を超える自殺問題とも絡み、うつ病に対する関心も強くなっている。うつ病に対する正しい理解、対処の方法について理解していただくために、身近な存在である家族に対して、家族教室を行った。(表3-11)

(表3-11) うつ病家族教室 実績

実施日時	第1回目 平成19年8月20日 午後2時～4時 第2回目 平成19年8月27日 午後2時～4時
場所	北保健センター
内容	第1回目 「うつ病の理解」講義と質疑応答 第2回目 「うつ病の治療と対応」講義と質疑応答
参加者	第1回目 33名、第2回目 26名

3-5 どこでもセミナー

堺市教育委員会が企画している「どこでもセミナー～堺市生涯学習まちづくり出前講座～」に「こころの健康講座～ストレスと上手につきあうコツ～」、「簡単うつ病講座～身近なうつ病、気づいていますか？～」の2つの講座メニューを登録し、こころの健康づくりに関する知識の普及・啓発を行った。(表3-12)

(表3-12) どこでもセミナー 実績

内容	講師	実施日数	延参加者数
こころの健康講座 ～ストレスと上手につきあうコツ～	医師・臨床心理技術者	20日	462

3-6 自殺防止対策事業

我が国では、平成10年に年間自殺者が3万人を超えて以来、高い水準で推移しており、自殺予防の総合的な対策を推進するために、平成18年6月に自殺対策基本法が制定、10月に施行された。これを踏まえて平成19年6月には自殺総合対策大綱が策定され、具体的な自殺対策の方策が示された。堺市においても平成19年4月に自殺対策連絡懇話会及び庁内連絡会を立ち上げ、各関係機関からの意見を取り入れながら、さまざまな取り組みを行っている。なお本年度については、精神保健福祉課と協力して事業展開を図った。

1) 街頭啓発キャンペーン等

大阪府、大阪市及び自殺防止に取り組む民間団体と共同して、世界保健機関(WHO)が定めた「世界自殺予防デー」に、街頭啓発キャンペーン等を行った。(表3-13～15)

(表 3 - 13) 街頭啓発キャンペーン

実施日時	平成19年9月10日(月) 午前8時～午前9時
場所	堺東駅前(他市外3箇所でも同時実施)
主催	堺市、大阪府、大阪市
内容	啓発リーフレット入りクリアフォルダの配布

(表 3 - 14) 自殺予防啓発パネル展示

実施日	平成19年9月11日～13日
場所	市役所本館1階 エントランスロビー
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ うつ病、自殺の現状等に関する啓発パネルを展示 ・ 無料こころの健康相談(13日のみ)

(表 3 - 15) 自殺予防啓発イベント

実施日時	平成19年9月15日(土) 午後1時30分～午後4時30分
場所	クレオ大阪東
主催	堺市・大阪府・大阪市・大阪府自殺対策連絡協議会
共催	(社)大阪精神保健福祉協議会・大阪司法書士会
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演 「自殺問題を考える(1) - 社会問題として -」 ・ パネルディスカッション 「自殺問題を考える(2) - 様々な立場からの報告 -」 ・ 相談コーナー 自死遺族の相談・多重債務の法律相談・こころの健康相談

2) プライマリケア医のためのメンタルヘルス研修

地域住民が抱えるうつ病やストレスなど、こころの健康問題に対処する方法や自殺に関する正しい知識の普及啓発を行い、地域精神科医との連携を構築するため、市内の内科医等を中心に、研修を開催した。(表 3 - 16)

(表 3 - 16) メンタルヘルス研修実績

実施日時	平成19年9月26日(水)午後2時~午後3時40分
場所	堺市医師会館 第3会議室
主催	堺市、堺市医師会、堺市自殺防止対策連絡懇話会
内容	「自殺の現状とその背景」 松村 一矢(こころの健康センター所長) 「睡眠障害を診療する」 黒田 健治(医療法人杏和会 阪南病院院長)
参加者	43名

3) 講演会

近年、いじめなどを苦にして自ら尊い命を絶つ子どもが相次いで、社会に大きな衝撃と深い悲しみを与えている。また大人にとっても社会における様々なストレスからうつ病に至る人が増加しており、いずれも自殺防止の観点から早急な対策が求められている。これら子どもや大人の抱えるストレスやうつ病の理解とその対処方法を学んでいただくために講演会を開催した。(表 3 - 17)

(表 3 - 17) 講演会実績

表題	事例に学び・考えるー「ストレスと上手に付き合うために」 ・・・一緒に考えてみませんか・・・
開催日時	平成20年3月15日(土)午後1時20分~午後4時15分
場所	堺市立東文化会館
主催	堺市、堺市自殺防止対策連絡懇話会、堺市医師会、堺地域産業保健センター
共催・協力	大阪府総合労働事務所(共催)堺市域労働ネットワーク(協力)
内容	・ 堺市精神保健福祉功績者感謝状贈呈式 ・ 基調講演「ストレスと上手に付き合うために」梶谷 健二 (大阪府臨床心理士会会長・関西大学心理相談室スーパーヴァイザー) ・ 無料こころの健康相談
参加者	220名

4) 勤労者へのアンケート調査及び分析

市内の事業所及び就業者を対象に、ストレスや職場での悩み、うつ病や自殺など

に対する考え方などを把握し、メンタルヘルス（こころの健康）や自殺対策の基礎資料とすることを目的として調査を実施した。（表 3 - 18）

（表 3 - 18） アンケート調査実施実績

	事業所調査	就業者調査
対象	市内事業所(堺商工会議所登録事業所より無作為抽出)	市内事業所で勤務する就業者
調査時期	平成 2 0 年 1 月 1 1 日 ~ 2 5 日	平成 2 0 年 1 月 1 1 日 ~ 3 1 日
配布回収方法	郵送配布、郵送回収	郵送配布、郵送回収(堺労働基準協会の協力により、事業所で取りまとめて返送)
配布数	3 8 8	4 , 0 0 0
回収数	1 4 3	2 , 5 7 9
有効回収数	1 4 3	2 , 5 6 9
有効回収率	3 6 . 9 %	6 4 . 2 %

5) 会議への参加

自殺防止対策連絡懇話会：3 回 庁内連絡会：5 回

4 技術支援事業

4 - 1 各種関係機関への技術支援

1) 相談業務への技術支援

市内の関係機関における精神保健福祉に関する相談業務等に対して、技術支援を行った。対象は、堺市障害者就業・生活支援センター、大阪障害者職業センター南大阪支所、大阪障害者能力開発校、堺市社会福祉協議会、各区地域福祉課、市内医療機関などであった。(表4-1~2)

(表4-1) 相談の形態

形態	件数
電話	6
来所	17
訪問	11
その他	1
合計	35

(表4-2) 相談の内容

内容	件数
社会復帰	7
アルコール	1
思春期	1
就労	4
療養生活	4
うつ・自殺	1
発達障害	1
ひきこもり	1
その他	15
合計	35

2) 事業への技術支援および講師派遣

市内の関係機関が実施する事業への支援、及び講師派遣を行った。(表4-3)

(表4-3) 技術支援 実績

事業	実施主体	内容	回数
社会適応訓練事業	精神保健福祉課、堺市障害者就業・生活センター	運営懇話会への出席、新規協力事業所の開拓及び調査、実務担当者会議への出席、研修会への協力	37

退院促進事業	障害福祉課	会議参加、精神保健福祉関係機関実務担当者会議参加、院内説明会への協力、パンフ作成協力	42
医療観察法関連事務	大阪保護観察所	会議参加、医療観察法勉強会	25
地域生活支援事業	障害福祉課	堺市障害者自立支援協議会及び各区障害者自立支援協議会への出席	62
堺市地域福祉権利擁護事業	社会福祉協議会	契約締結審査会への出席	6

4 - 2 保健センターへの技術支援

1) 精神保健福祉相談業務への技術支援

市内各区の保健センターにおける精神保健相談業務に対して、技術支援を行った。地域相談事業の主担機関である保健センター相談業務に対して、セカンドオピニオンの機能することで側面からの支援を行った。(表4-4~5)

(表4-4) 相談の形態

形態	件数
電話	14
来所	19
訪問	15
その他	7
合計	55

(表4-5) 相談の内容

内容	件数
老人精神保健	7
アルコール	1
思春期	2
就労	3
療養生活	2
発達障害	12
うつ・自殺	1
ひきこもり	2
その他	25
合計	55

5 組織育成事業

市民の精神保健福祉の向上を図るために、地域住民による組織活動に対して支援を行った。各関係団体の組織の育成に努めるとともに、ネットワークの整備および強化を図った。(表5)

(表5) 組織育成事業 実績

対象	件数
堺西地域精神障害者生活支援ネットワーク	8
堺のぞみの会(家族会)	12
交流ソフトボール大会	2

6 精神医療審査会・自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

6 - 1 精神医療審査会

当センターでは精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき、精神医療審査会事務局を置き、精神医療審査会を開催している。合議体は2合議体で、平成19年度は合議体を24回開催した。（表6-1～7）

（表6-1）審査委員内訳

委員	人数
精神保健指定医	6 予備委員1名含む
弁護士	2
その他学識経験者	3

（表6-2）届出書類件数

届出書類	件数
医療保護入院者の入院届	1,669
医療保護入院者の定期病状報告書	839
措置入院者の定期病状報告書	3

（表6-3）退院および処遇改善請求

	件数
請求電話架電数（延べ）	235
受理	44
年度内審査完了件数	21
取り下げ	10
要件消失	7
審査結果次年度繰越	6

* 退院と処遇改善の同時請求は1件として計上

（表6-4）審査内容

審査内容	件数
退院請求のみ	20
退院請求と処遇改善請求	7
処遇改善請求のみ	0

（表6-5）請求者の入院形態

入院形態	件数
措置入院	9
医療保護入院	34
任意入院	1

(表6-6) 退院請求の審査結果

審査結果	件数
入院を継続	19
入院形態の変更	2
退院命令	0

*19年度中に審査結果が出たものを計上

(表6-7) 処遇改善請求の審査結果

審査結果	件数
処遇妥当	3
処遇改善	1

*19年度中に審査結果が出たものを計上

6 - 2 自立支援医療(精神通院医療)及び精神障害者保健福祉手帳の判定

1) 自立支援医療(精神通院)支給判定業務

自立支援医療(精神通院)支給にかかる診断書の判定業務を行った。(表6-8)

(表6-8) 自立支援医療(精神通院)判定件数

判定	件数
承認	9,864
不承認	3
合計	9,867

2) 精神障害者保健福祉手帳判定業務

精神障害者保健福祉手帳の申請にかかる診断書の判定業務を行った。(表6-9)

(表6-9) 精神障害者保健福祉手帳判定件数

判定	件数
承認	1,482
不承認	6
合計	1,488

堺市こころの健康センター所報 第2号(平成19年度実績)

編集・発行 堺市健康福祉局健康部こころの健康センター

〒591-8021 堺市北区新金岡町5-1-4 北区役所5階

TEL 072-258-6646 FAX 072-258-6632

堺市行政資料番号 1-H1-08-0269